

資料 (平成30年度佐渡学センター年報抜粋)

3 平成30年度 入館者の状況

	佐渡博物館	両津郷土博物館	相川郷土博物館	相川技能伝承展示館	史跡佐渡奉行所跡	佐渡国小木民俗博物館	海運資料館	新穂歴史民俗資料館	金井歴史民俗資料収蔵庫	赤泊郷土資料館	(佐渡植物園)	総計
4月	395	1	88	91	990	941		123	0	33	(240)	2,662
5月	922	1	382	378	2,620	2,217		970	0	44	(366)	7,534
6月	657	23	1,951	2,502	3,578	2,154		407	0	61	(300)	11,333
7月	750	17	691	701	2,386	1,701		317	0	80	(469)	6,643
8月	1,040	9	424	470	3,324	2,867		544	0	79	(310)	8,757
9月	732	115	330	364	2,058	1,994		443	0	23	(240)	6,059
10月	777	35	176	200	2,040	1,255		244	0	14	(365)	4,741
11月	569	24	67	58	834	637		144	0	174	(240)	2,507
12月	281	0	11	1	110	97		0	0	1	(62)	501
1月	181	33	3	4	64	82		0	0	3	(62)	370
2月	267	35	14	15	148	126		0	0	4	(56)	609
3月	379	48	57	25	908	418		262	0	1	(391)	2,098
入館者年度計	6,950	341	4,194	4,809	19,060	14,489	0	3,454	0	517	(3,101)	53,814

※総計には、佐渡植物園入場者を含まず。

平成16年度	(20,225)	2,772	4,497	7,844	26,317	20,523	1,477	2,801	263	594		67,088
17年度	(20,031)	3,021	4,354	7,535	25,690	19,902	1,309	2,308	315	812		65,246
18年度	(16,248)	3,086	3,599	6,800	29,195	18,247	1,363	2,607	153	493		65,543
19年度	(14,417)	2,681	2,755	6,239	22,880	17,334	1,413	2,944	176	414		56,836
20年度	(13,470)	3,162	4,925	6,279	20,648	15,038	1,460	3,445	123	282		55,362
21年度	(12,621)	1,838	5,883	5,609	22,105	19,136	1,237	2,859	0	313	(4,360)	58,980
22年度	(10,566)	2,482	6,134	5,890	20,224	18,338	1,241	2,314	74	189	(3,650)	56,886
23年度	(10,072)	2,406	6,893	6,793	19,077	16,957	1,513	2,942	0	168	(2,830)	56,749
24年度	(10,660)	3,634	6,402	6,944	18,407	17,219	1,472	2,946	0	254	(2,860)	57,278
25年度	(8,492)	2,212	6,055	6,207	18,568	16,624	1,157	2,693	0	308	(3,230)	53,824
26年度	10,906	239	5,547	5,511	20,445	19,198	1,224	2,315	0	396	(2,840)	65,781
27年度	9,656	261	4,893	5,689	19,878	21,777	1,227	3,183	0	266	(3,067)	66,830
28年度	10,786	235	5,208	5,728	21,191	18,793	1,137	4,308	1	357	(3,137)	67,744
29年度	8,257	268	4,014	4,493	20,377	16,795	1,134	3,009	27	297	(3,069)	58,671
30年度	6,950	341	4,194	4,809	19,060	14,489		3,454	0	517	(3,063)	53,814

※平成21年度以降は、入館者数に無料入館者を含む(佐渡博物館は26年度より含む)

Ⅲ. 文化庁補助事業

文化庁「平成 30 年度 文化庁 文化芸術振興費補助金（文化遺産総合活用推進事業）」を受けて補助事業を実施した。

公開開始日：平成 30 年 9 月 1 日

公開ページ：佐渡芸能アーカイブ

<https://sado-geinou.com/>

【普及啓発事業】（文化振興係）

イベント「第 3 回佐渡民謡の祝祭」の開催

日 時 平成 30 年 9 月 22 日（土）
午前 10 時～午後 4 時
主 催 佐渡民謡活性化実行委員会
会 場 史跡佐渡奉行所跡
来場者数 約 700 名
事業費 3,801 千円

佐渡民謡の普及啓発・次世代継承を目的とし、島内 17 民謡団体、小木小学校、真野中学校、羽茂高校、佐渡出身民謡歌手小林よしえ氏などが出演する佐渡民謡堪能イベントを開催した。

来場者の満足度も高く、大変好評なイベントとして定着しつつあることから、次世代継承に繋がる期待が大きい事業となっている。

(2)パンフレット制作

下記パンフレットを制作した。佐渡芸能アーカイブに掲載した伝統芸能を全て網羅する内容となっている。また、QR コードを掲載し、(1)のホームページとリンクさせ、すぐに興味のある伝統芸能動画にアクセスできる仕組みとなっている。

その他、伝統芸能やその芸能が披露されている祭事等の説明だけではなく、普段知ることのできない伝統芸能に使用する道具の話なども掲載されており、見る人の興味を惹く内容となっている。

制作物

佐渡島伝統芸能 BOOK	鬼太鼓編	300 部
佐渡島伝統芸能 BOOK	舞台芸能編	300 部
佐渡島伝統芸能 BOOK	風流と唄編	300 部
佐渡島伝統芸能 BOOK	祈りと神楽編	300 部

事業費 4,531 千円

【情報発信事業】（文化振興係）

(1)ホームページ構築・公開

ホームページにおいて昨年度撮影・編集した島内各地 24 カ所の祭事・イベント（以下「祭事等」という。）で披露された伝統芸能動画のほか、当該祭事等の日時、アクセス方法、各種伝統芸能の歴史や実際に演じている方のインタビューを掲載した。

単なる動画による保存記録にとどまらず、芸能の振興や継承に役立つ実用的なデジタルアーカイブとなっている。

IV. 佐渡学センター事業報告

1. 展示事業

【佐渡博物館】

<展示構成>

常設展示は、2階自然・考古・歴史・民俗展示室で行っており、佐渡全体の自然・歴史・文化等をまとめて紹介している。

同じく2階の美術・工芸展示室は無名異焼・蠟型鑄金などの伝統工芸作品や佐渡出身作家の作品などの展示を行い(特別展等会期中の展示は基本的になし)、また企画展示場として特別展・企画展の会場としている。

1階では佐渡金銀山展示室として、絵図面・採掘精錬道具・出土品・絵葉書等を用いて佐渡金銀山遺跡の紹介等を行っている。

1階ホールには、佐渡に伝わる民謡の紹介DVD上映コーナーや佐渡ジオパーク情報コーナー、クジラの化石等がある。

中庭ではロックガーデン(佐渡産出の岩石約50種、中庭両脇には、佐渡の民家と土蔵(いずれも移築、安全確保のため建物内立入禁止)・古墳時代の竪穴住居と高床式倉庫(いずれも復元、安全確保のため建物内立入禁止)がある。

また、展示されている内容から出題するクイズブックを平成27年度から開始し、主に小学生を対象としている。難易度ごとに初級・中級・上級・博士コースの4種類を作成し、希望する人が挑んでいる。

<企画展示>

「佐渡の美術・工芸」

会期 平成30年4月3日(火)～5月31日(木)
平成31年1月4日(金)～3月15日(火)
内容 主に佐渡出身の重要無形文化財保持者(人間国宝)の作品及び佐渡出身または佐渡ゆ

かりの作家の作品を展示した。会場には作者の略歴を記した配布資料を置いて、作品展示だけでなく作家の紹介もできるよう配慮した。入館者数 1,888人。

「宮本常一写真で読む佐渡②」

会期 平成30年3月19日(月)～5月31日(休)
内容 日本を代表する民俗学者である宮本常一が撮影した、昭和30～40年代の佐渡の観光に注目した写真をパネル展示した特別写真展の第二弾。入館者数 1,430人。

「佐渡の縄文時代」

会期 平成30年6月10日(日)～12月16日(日)
内容 佐渡の縄文遺跡である岩屋山^{どうけつ}洞穴遺跡、長者ヶ平遺跡、堂の貝塚、藤塚貝塚、三宮貝塚、垣ノ内遺跡等から出土遺物を展示。
入館者数 4,532人。

「国画会会員推挙特別展 高橋保版画展」

会期 平成30年7月5日(木)～9月24日(月)
内容 佐渡出身作家では3人目の国画会会員となった高橋保氏(前佐渡市博物館協議会会長)の記念特別展。これまで作成した「異空」シリーズを中心に展示。
入館者数 2,316人。

巡回展「縄文の造形美—六反田南遺跡と火焰型土器」

会期 平成30年10月6日(土)～12月16日(日)
内容 文化庁主催「発掘された日本列島 新発見 考古速報 2016」の主役として全国を縦断した六反田南遺跡の出土品に、中越・下越・

資料 (平成 30 年度佐渡学センター年報抜粋)

佐渡の火焰型土器を加えた縄文の美と技が、ふるさと新潟を巡回した巡回展
入館者数 1,530 人。

「田中足穂（日展会友・県展参与）彫刻作品展」
会期 平成 31 年 1 月 12 日（土）～3 月 31 日（日）
内容 佐渡で活動している田中足穂氏の彫刻作品展。佐渡ゆかりの歴史上の人物等の彫刻作品のほかに佐渡の風景の水彩画を展示。
入館者数 813 人。

「宮本常一写真で読む佐渡③」
会期 平成 31 年 3 月 25 日（月）
～令和元年 7 月 15 日（月）
内容 日本を代表する民俗学者である宮本常一が撮影した昭和 30～40 年代の佐渡の日常生活の風景にみる「モノ」に注目した写真をパネル展示した特別写真展の第三弾。会期中（5 月 4 日）に展示説明会を開催。
入館者数 112 人。※3 月末まで

【両津郷土博物館】

<展示構成>

常設展示は、第 1～第 3 展示室で構成されており、それぞれ「海」、「くらしと木」、「祭」をテーマとしている。民俗資料を中心に歴史資料がそれを補完する形での展示を行っている。

【相川郷土博物館】

<展示構成>

鉱山に関係した資料、相川地区出土の考古資料、遊女関連資料、昭和 10 年代に外務大臣を務めた有

田八郎氏の資料を展示している。

体験コーナーとして水上輪を設置し、実際に回して鉱山労働の厳しさと、当時の技術を体感できる。平成 28 年度からは、佐渡博物館に引き続き、相川郷土博物館版クイズブックを開始し、小学生を主な対象とし、希望者に配付している。

【相川技能伝承展示館】

<展示構成>

展示室では島内の窯元・裂き織り愛好者の作品を展示している。また、体験学習のメニューにはないが、文弥人形も展示している。裂き織り実習室は、自由に入入りでき、見学できるようになっている。

【史跡佐渡奉行所跡】

<展示構成>

基本的に当時の技術で復元した建物を来館者に体感してもらう形であり、御役所内を説明員が案内している。ガイダンス施設である勝場^{せりば}では、発掘調査で出土した遺物や絵巻物（レプリカ）などの資料を展示し、当時の選鉱作業の設備を復元し、実際に石磨^{いしうす}を回す体験を行っている。施設の活用を図るため、地域イベントである「佐渡國相川ひなまつり・お茶会」「宵乃舞」等の会場として開放している。

<企画展示>

「佐渡國相川ひなまつり」
会期 平成 31 年 3 月 5 日（火）～3 月 25 日（月）
主催 佐渡國相川ひなまつり実行委員会
後援 佐渡市

会場 史跡佐渡奉行所跡 御門番所

内容 平成 31 年度は寄贈いただいた岩佐家雛人形（相川郷土博物館所蔵）を大広間に飾り、来館者に鑑賞していただいた。
入館者数 822 人。

【佐渡国小木民俗博物館】

＜展示構成＞

本館には、「衣」「信仰」「陶器」をテーマにした展示室のほか、昔の生活道具を展示している大型展示室がある。新館には南佐渡の漁撈具や農具、新館ホールでは長者ヶ平遺跡出土品などの考古資料を展示。そして、千石船展示室には、全長 23.75m の白山丸を展示しており、船内の見学もできる。

平成 29 年度からは、佐渡博物館、相川郷土博物館に続き、小木民俗博物館版クイズブックを開始し、小学生を主な対象とし、希望者に配付している。

【幸丸展示館】

＜展示構成＞

18m×24mの吹き抜けの展示館内には、船主であった長谷川正作氏の計画により、航海中にいかなる船も優先した「右舷開き」と呼ばれる帆形を再現して展示を行っている。また、展示館前庭には、案内解説看板や天然記念物および名勝「佐渡小木海岸」の岩石（枕状溶岩、柱状節理）、かつて湾内に使用されていた尾道産の御影石などを配し、無料入館できる身近な文化施設として利用されている。

※現在は、傷みのため帆を下ろしている。

【佐渡植物園】

＜展示構成＞

北緯 38 度線上に位置する佐渡島は、潮流の影響によって寒暖の差が少なく自生種が極めて多い。日本列島の縮図的な植物分布となっている。13 のゾーンに区分けした園内には、自生種の代表的な植物を植栽展示しており自然散策道や遊歩道を歩くと四季を通じて趣が感じられる。

昭和 47 年佐渡植物園 20 周年記念として、明治神宮から分けて頂いた花菖蒲は 6 月下旬～7 月上旬が見頃である。

＜企画展示＞

「春の山野草展」

会期 平成 30 年 5 月 12 日～5 月 13 日

主催 佐渡植物園・佐渡植物園友の会

会場 羽茂地区公民館ホール

内容 出展者 14 人、展示 260 鉢、写真 15 点、
来場者 118 人

「ウチョウランと初夏の山野草展」

会期 平成 30 年 7 月 7 日～7 月 8 日

主催 佐渡植物園・佐渡植物園友の会

会場 羽茂地区公民館ホール

内容 出展者 13 人、展示 251 鉢、写真 17 点、
来場者 159 人

「大文字草と秋の山野草展」

会期 平成 30 年 10 月 27 日～10 月 28 日

主催 佐渡植物園・佐渡植物園友の会

会場 羽茂地区公民館ホール

内容 出展者 13 人、展示 163 鉢、写真 15 点、
来場者 117 人

「雪割草展」

会期 平成 31 年 3 月 23 日～3 月 24 日

主催 佐渡植物園・佐渡植物園友の会

会場 羽茂地区公民館ホール

資料 (平成 30 年度佐渡学センター年報抜粋)

内容 出展者 12 人、展示 278 鉢、写真 14 点、
来場者 143 人

入館者 450 名。

「春駒・のろま人形」上演会
公演日：7/14・15・21・22・28・29
8/4・5・11・12・14
来場者 205 名。

【新穂歴史民俗資料館】

＜展示構成＞

1 階では、新穂出身の日本画の大家土田麦僊の作品や鬼太鼓、国指定文化財の文弥人形、県指定文化財の説経人形・のろま人形に関する資料を展示。2 階においては、国指定重要文化財の新穂玉作遺跡や蔵王遺跡の資料、また各種農具や生活用具といった民俗資料を展示。

収蔵資料は約 1,400 点。

＜企画展示＞

新穂写彩の会 佐渡総合高校写真部「合同写真展」
会期 平成 30 年 3 月 1 日（木）～4 月 8 日（日）
主催 新穂の歴史と民俗を考える会
共催 新穂写彩の会、佐渡総合高校写真部
内容 新穂写彩の会、佐渡総合高校写真部が撮影した作品を展示。入館者 112 名

資料館収蔵品による「山下清」展

会期 平成 30 年 4 月 28 日（土）～5 月 20 日（日）
主催 新穂の歴史と民俗を考える会
内容 資料館で収蔵している山下清のリトグラフ等 22 点を展示。入館者 799 名。

新潟県有形文化財指定記念「蔵王遺跡」展

会期 平成 30 年 6 月 2 日（土）～7 月 8 日（日）
主催 佐渡市・佐渡市教育委員会
共催 新穂の歴史と民俗を考える会
内容 新穂地区に位置する蔵王遺跡は、弥生時代中期から古墳時代前期の遺跡。その資料 222 点が新潟県有形文化財指定を受けたことを記念した特別展。

「萩原光之」作品展

会期 平成 30 年 8 月 18 日（土）～9 月 30 日（日）
主催 新穂の歴史と民俗を考える会
内容 佐渡出身作家で、両津高校、佐渡総合高校で教員をされていた萩原光之氏によるシルクスクリーン版画の特別展。入館者 332 名。

「裂き織り」作品展

会期 平成 30 年 10 月 6 日（土）～11 月 4 日（日）
主催 新穂さっこりサークル
共催 新穂の歴史と民俗を考える会
内容 主に島内在住の裂き織り愛好者が作成した作品による特別展。入館者 169 名。

3. 調査研究事業

・法政大学のゼミ調査の協力

法政大学キャリアデザイン学部 金山喜昭教授のゼミでは、毎年各地の文化施設の調査を行っている。近年では、市町村合併に伴う文化施設（博物館や資料館等）の再編や、民俗芸能と地域づくり等をテーマに調査している。これまでに新潟市（中央区）の文化施設調査や新津鉄道資料館と商店街の連携の在り方等について調査してきている。

今回、佐渡市の合併後の文化施設（博物館や資料館等）について、その運営状況について調査が行われた。

日時：平成30年8月1日（水）～4日（土）

内容：合併前と合併後の文化施設の概要、2017年度の予算額（概算）、事業内容、正職員の人員体制等について、佐渡学センターの所管施設を案内して回り、意見交換等を行った。

調査者：法政大学キャリアデザイン学部

金山喜昭教授

ゼミ生6名

対応者：岡部欽也センター長

本間克彦文化学芸係長

五十嵐麻湖主事

井野端圭介主事

高藤一郎平指導員

・新潟県立文書館歴史資料所在確認調査の協力

新潟県立文書館では、平成4年の開館以来、新潟県各地に所在する歴史資料の保存促進やその収集・活用にも努めている。佐渡市管内の歴史資料所在確認調査の協力を行った。

日時：平成30年11月5日（月）～7日（水）

内容：相川・小林家（元材木商）の文書の保存状況確認、目録作成及び概要調査

調査者：文書館職員 3名

文書調査員 2名

対応者：井野端圭介主事

4. 普及教育事業

【小学校との連携事業】

・平成30年度「小学生による佐渡金銀山関係の郷土学習」

佐渡市立全小学校を対象に、佐渡の金銀山に関連した郷土の歴史や文化などを学習する機会とし、郷土を愛し誇れる子どもたちの育成を目的とする。

<出前授業>

①二宮小学校3年生

実施日 5月25日（金）

児童数 34人

内容 佐渡にはどこに金銀山があるのか、どうして金銀山が見つかったのか、どのくらい金がとれたのか、など金山についての基本的な内容について学習した。

<現地学習の事例>

①二宮小学校3年生

実施日 6月1日（金）

児童数 34人

内容 実際に佐渡金山に行き、金山ではどんな仕事があったのか、また、どんな道具を使っていたのか等について学習した。

【職場体験】

・佐和田中学校2年生

実施日 平成30年9月11日（火）～9月13日（木）

生徒数 6人

内容 博物館をPRする広告ツールや広告内容を考えることをミッションとして、ポスター作成やフェイスブック記事を作成した。

5. 支援・助成事業

【佐渡文化財団運営費補助金】

平成30年7月2日に佐渡の文化の発展及び活き活きとした地域住民の暮らしの実現のために設立された一般財団法人佐渡文化財団が事業を進めていくために必要な経費に対し、補助金を交付した。

補助事業者：一般財団法人佐渡文化財団
交付確定額：26,746千円

【文化財保護事業補助金】

地域での伝承が続いている佐渡市、佐賀県神埼市及び山口市の鷺流伝承団体が集い、山口市で11月4日に開催された公演、交流会へ参加するために必要な経費に対し、補助金を交付した。

補助事業者：佐渡鷺流狂言研究会
交付確定額：200千円

【文化関係等出場激励金】

長野県伊那市で8月8日から10日の間に開催された第42回全国高等学校総合文化祭へ出場するにあたり激励金を交付した。

対象団体：新潟県立羽茂高等学校
交付確定額：200千円

【伝統芸能】

担い手育成事業として、11月14日、15日に開催した能楽師を志す者にとって必須のカリキュラムである能装束の着付けの講習会にかかる必要な経費に対し、補助金を交付した。

補助事業者：佐渡の能を識る会
交付確定額：100千円

6. 連携事業

佐渡学セミナー

第8回「佐渡学セミナー」

日時 平成31年2月9日（土）

午後1時30分～4時30分

会場 あいぽーと佐渡 多目的ホール

入場者数 134名

内容

- ・講演 演 沖繩・八重山諸島の現在
一シマ毎の多様な「自治」をめぐって
講演者 新潟大学人文学部准教授
加賀谷真梨氏

- ・調査報告 泉地区の民俗調査から
報告者 新潟大学人文学部民俗学研究室

主催 佐渡市教育委員会

共催 新潟大学人文学部

7. 刊行物

- ・佐渡学センター 年報第9号